

ご案内

3周年の記念写真



開創 4 周年記念法会ご案内

日時：2016 年 12 月 2 日（金）10 時～12 時

（9 時半から受付開始）

場所：初馬寺 津市栄町 3-210 Tel 059-227-3632

（津駅東口徒歩 5 分）

七霊場からお礼を込めて幸せ祈願祭です。

（美味しいお赤飯をご用意しています）

参加費：ご志納（※駐車場はありません。近くのコインパーキングまたは公共交通機関をご利用ください）

寄稿

■「無宗教化していく個人思想の危惧」

倉島昌行（四天王寺東堂）

神道の自然崇拝から古墳時代、そして仏教形式の仏壇墓石迄、古来日本人は家を中心として、安心できる肉親の中でその命を育てて来たものであります。しかるに昨今の報道を聴くにつけ、家の宗教は皆無といって過言ではありません。喜怒哀楽の世界を各家庭で昇華する即ち社会的に承認されない攻撃的傾向や諸々の衝動をおさめる働きを家族が教えてくれる恰好の教育の場であったはずであります。

帰宅したら仏壇に手を合わせる。食事の前には手を合わせる。こういった行為は、昔はどの家でも当たり前のように行われていた習慣でもあった。難しい宗教理論や概念ではなく生活場での自然教育でもあったはずである。

「慈悲もなく、情けももたぬ金持ちは四代続かず、さても気の毒」 貧学道を今一度問い直してみるべき時代であろう。

■「日々口実」（好日とはならんのです）

真置美穂（鈴鹿市 真宗高田派壽善寺住職）

私がお預かりしているお寺の掲示板に「分別を断ち切りがたい身の事実を聞くが念仏」と記してあります。

親鸞さん(1173～1262、平安時代末期～鎌倉時代初期に活動され、浄土真宗のご開山と敬われている方)は、最晩年に「他力には義なきを義とす」と遣（つか）わされています。私たちはあれやこれやと分別(思慮)して義(こうすべきだ、ああすべきではないとの道筋)をたてますが、分別そのものが、身の事実から切り離され、意識によって身の事実を変えられると思ひ込んでしまっているのが、昔から将来に至るまで、人間の悲しさではないでしょうか。身の事実を聞き、より広い世界にうなずき、おのずからしからしめられてゆくのが親鸞さんの生涯であったかなと思われれます。



■「日本人の倫理観」 “公のころ”

家古谷光現（尾道市 長福寺住職）

道元禅師は、宝治二年(1248)九月一日の上堂で、座蒲の上で端坐して非の思量を思量する。すると、この精魂を乱さんとばかりに、さまざまな思い（あやしい妄想・分別）が湧いてくる。しかし、この永平寺の住職である老僧(わたし)（道元）は、一口に仏と衆生を呑み込んでしまう。例えば、地面に居った獅子が、小さな兎であろうが、猛々しい大きな象であろうが区別しないで、全力でとらえるようなものだ。（取意識）と、示されているのです。

司馬遼太郎さんが「この国のかたち」の中でいわれている、痛々しいほどの清潔さと公の意識（私しない・諸法無我）という日本人の倫理観といわれているのを、この端坐の中に見出し、現在(いま)を生きたいと思うのです。

視察旅と行脚報告

■大和七福八宝めぐり視察旅行

近藤宥祥（初馬寺副住職）

6 月 21 日（火）、伊勢の津七福神



の各霊場の宮司、住職、事務局の面々、七福神のお手伝いの方々とともに大和七福八宝霊場への視察旅行に行っていました。

大和七福八宝霊場には、信貴山の朝護孫子寺、當麻寺中の坊、久米寺、おふさ観音、安倍文殊院、談山神社、長谷寺の七社寺と、さらに七福倍増のご利益があるとして大神（おおみや）神社を加えた8つの霊場があります。今回訪問させていただいたのは、霊場の事務局が置かれている安倍文殊院と大神神社です。また、日本で一番初めに本格的寺院として建立された飛鳥寺も併せてお参りさせていただきました。

大和七福八宝霊場は昭和五十二年から始められておりすでに四十年ほどの歴史があります。それほど長い年月運営をされており、なおかつ現在でも積極的に活動されているということで、伊勢の津七福神を運営していくにあたり、なにか勉強になるのではないかというのが今回の視察旅行の目的です。

初めに訪問した**安倍文殊院**では、ご住職みずからお寺の縁起などを説明してくださり、また七福神霊場を運営するにあたっての経験談や苦情に対する対処法などについてご教授頂きました。その後、本堂では国宝である本尊文殊菩薩様をお参りさせていただきました。



大神神社は平日であったにも関わらず大変多くの参拝者で賑わっておりました。私達伊勢の津七福神の面々は拝殿に上がらせていただき、大神神社神職の方々と共に参拝をさせていただきました。

今回の視察旅行で勉強になったと感じたのは、安倍文殊院のご住職の霊場会運営についてのお話でした。仏壇店などで売られている汎用性のある掛け軸やご朱印帳を持ってお参りされる方に対しての

対処についてです。受付に人がいない霊場では染筆をすることが出来ないということが最も多い苦情であるそうです。そのような受付体制を作ることが出来ないのであれば、はじめから掛け軸やご朱印帳への染筆は断っておくべきであるということでありました。

現在の伊勢の津七福神においてもご朱印帳でお参りされている方がまれにおられ、特に確認もせずに染筆をしておりました。しかし全ての霊場において染筆をすることは出来ないことをあらかじめ確認しておくこと、また確実に満願成就した証が必要であれば色紙をお求めいただく必要があることを案内すべきであったなと思いました。

伊勢の津七福神はまだ始まってまもない霊場会ですが、長く続けていき、そして繁栄させていくために何が必要なのか、今回参加した各々が気付いたことがあったことと思います。それはこれからの霊場会運営に必ず生きてくることだろうと思います。

■ 雁行 がんこう

今年2回目の托鉢行脚に出ました。

10月15日(土)は秋晴れに恵まれ、四天王寺八の会の6名と倉島東堂は笠、白衣、杖、輪袈裟の出で立ちで寺を出発しました。津観音寺まで歩き、バスで結城神社への行程です。

ゆったりした時間の流れの中に御詠歌とリンの音が秋空に響きました。途中の澤徳仏壇店、パラドックス、とらや。お店の方々にお接待を受けながら、無事雁行を終えました。

次回は沙羅双樹の花の頃、円光寺をめざします。町で見かけた時は声をお掛け下さい。(八の会)



Picture by zusi

伊勢の津七福神 友の会の皆様へ



伊勢の津七福神が津市に開創して4年が経とうとしています。
巡拝の方も2,500余名となりました。200名の友の会会員の皆様のご協力のもと5年、10年・・・と歩みを進めていきたいと思っております。
是非とも、この活動に御賛同くださり、町おこしの夢を見てみませんか。
会員の方には年3回、友の会便りが届きます。以下の特典もございます。

会費 : 1,000円/年間
金融機関 : 郵便局
郵便振替口座 : 00820-8-123136
口座名義 : 伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内
電話 : 059-225-8558
URL : <http://isenotsu7fukujin>



■伊勢の津七福神 友の会特典 (会員証をお見せください)

- ・鰻のつたや 059-228-3005 100円引き
- ・榊原館 059-252-0206 日帰り入浴 お茶進呈
- ・谷石材 0595-21-2148 花筒5%引き
- ・はま作 059-228-3088 和菓子サービス
- ・松菱 059-228-6082 7階彦兵衛ランチ700円以上 コーヒー1杯サービス
- ・浜千鳥 059-229-2255 食事の際、10%割引 (都ホテル内)
- ・ホテル三徳 059-223-3109 宿泊客にコーヒー一杯サービス
- ・とらや本家 059-228-4802 1000円以上お買い上げでポイント5倍押し (お菓子)
- ・パラドックス 059-264-7877 アイスクリームサービス Paradox 津市大門 6-9
- ・マキノ回生堂 059-228-5331 1000円以上お買い上げの方にティッシュひと箱
- ・蕎麦彩 059-222-2513 蕎麦を食べられた方にデザートサービス

編集後記 : ご意見、原稿お寄せ下さい。

12月2日は初馬寺でお待ちしています。

池上 kanon@nifty.com

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内
電話 : 059-225-8558